

関西経済レポート(12月号)

- ➡ 10月の関西の鋳工業生産は、前月比+2.5%と2カ月ぶりの上昇。
- ➡ 昨年来の円安により、11月の関西の輸出額は9カ月連続で増加。一方、輸入も11月連続で増加し11月の過去最高額を更新。
- ➡ 11月の消費者マインドは前月から持ち直している。
- ➡ 11月の大型小売店販売額は前年比プラス、新設住宅着工も好調を維持。
- ➡ 11月の失業率と有効求人倍率は前月より改善した。
- ➡ 10月の建設工事は堅調な増加。11月の公共工事受注額はいまだ高水準も伸びはマイナスに転じた。
- ➡ 中国11月製造業PMIは前月より横ばい、改善する兆しはまだ見られていない。

※「近畿」・「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。
鋳工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

～生産～

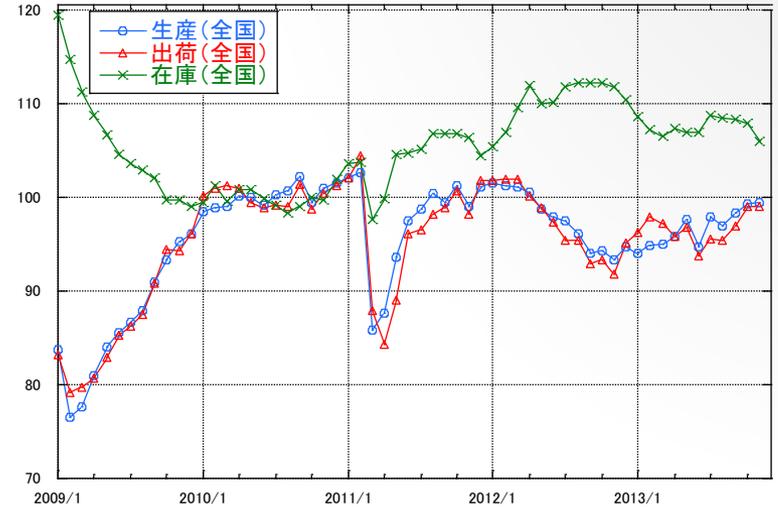
鉱工業指数の推移(近畿・2013年10月まで), 2005年=100



(データ出所: 「近畿経済の動向」、近畿経済産業局)

- 関西における10月の鉱工業生産指数(確報値: 季節調整済)を見ると、生産は91.4で前月比+2.5%、出荷は90.2で同+0.6%といずれも2カ月ぶりの上昇。在庫は103.3で同-1.6%と4カ月ぶりの下落となっている。
- 業種別に生産指数をみると、一般機械(+6.7%)、化学(除. 医薬品)(+5.1%)、輸送機械(除. 鋼船・鉄道車両)(+4.3%)、等が前月から上昇した。一方、電子部品・デバイス(-5.2%)、情報通信機械(-11.5%)、金属製品(-1.9%)等が下落した。
- 一般機械等の増産に伴い、生産は増加しているものの、回復の動きは緩やか。

鉱工業指数の推移(全国・2013年11月まで), 2010年=100

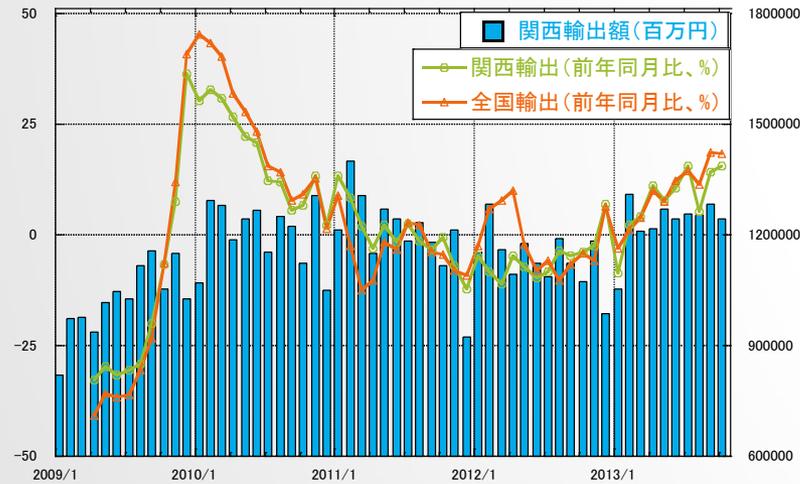


(データ出所: 「鉱工業指数」、経済産業省)

- 全国における11月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は99.4となり前月比+0.1%で3カ月連続の上昇となった。出荷は99.0で同-0.1%と3カ月ぶりの下落、在庫は106.0で同-1.9%と4カ月連続の減少。
- 業種別にみると、輸送機械、情報通信機械、化学(除. 医薬品)等が上昇。一方、はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、金属製品等が低下。
- 12月の生産見込み(製造工業: 前月比+2.8%)は前月の生産予測調査結果(同+0.9%)から引き続き上方修正された。電気機械、電子部品・デバイス、輸送機械等の回復が見込まれている。さらに、1月の生産計画も増産(同+4.6%)が見込まれている。足下の生産も回復を続けており、今後の生産回復が期待される。

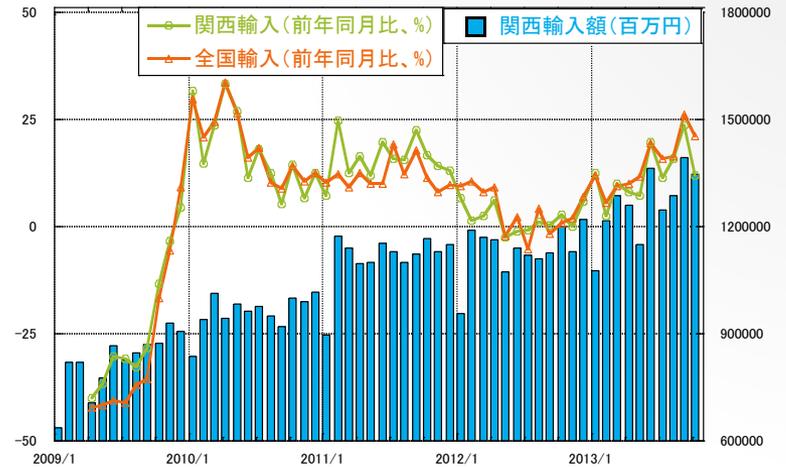
～輸出入～

輸出動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2013年11月まで)



(データ出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」、大阪税関調査統計課)

輸入動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2013年11月まで)



(データ出所：「財務省貿易統計」、財務省)

- 関西11月の輸出額 (速報値) は1兆2,427億円、前年同月比+15.7%と9カ月連続の増加。
- 輸出は、半導体製造装置、鉄鋼、船舶を中心に増加。
- 全国11月の輸出額 (確報値) は5兆9,004億円、前年同月比+18.4%と9カ月連続の増加。昨年来の円安傾向により円ベースでの輸出の増加が続いている。
- 関西の輸出を地域別にみると、アジア (前年同月比+11.4%)、中国 (同+19.0%)、米国 (同+14.1%)、EU向け (同+36.5%) 輸出はいずれも増加を続けており、特にEU向けの伸びが顕著である。

- 関西11月の輸入額 (速報値) は1兆3,468億円、前年同月比+12.1%と11カ月連続の増加。輸入額は11月の過去最高額を更新。
- 半導体等電子部品(11月過去最高)、通信機(過去最高)、原油及び粗油(11月過去最高)を中心に、輸入は大幅に増加してきている。
- 全国11月の輸入額 (速報値) は7兆1,945億円と2008年8月以来の7兆円台となり、前年同月比+21.1%と13カ月連続の増加。
- 結果、全国の純輸出額は-1兆2,941億円と17カ月連続の赤字。貿易収支は近畿、全国共に赤字が続いているが、近畿に比して全国の様子は厳しさを増している。

～消費者センチメント～

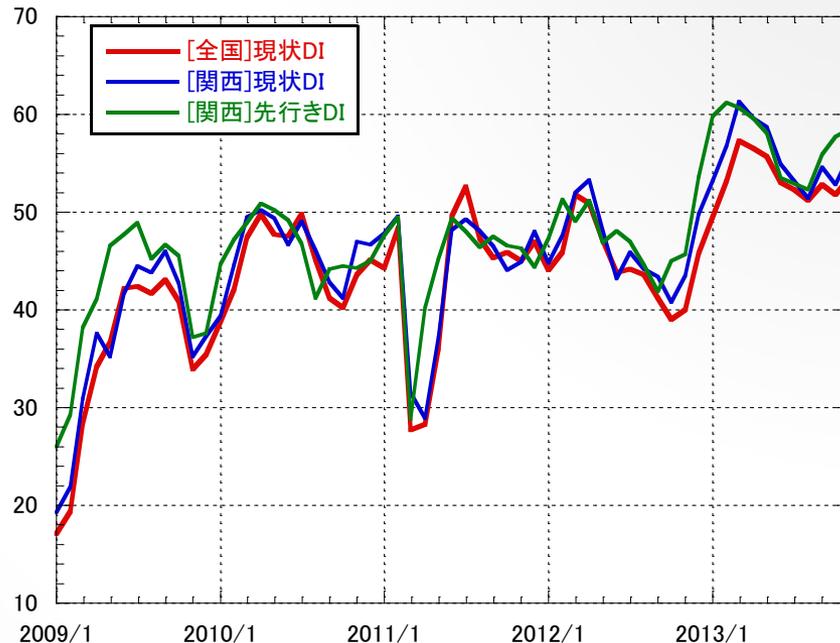
消費者態度指数(原数値、2013年11月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」(平成25年12月10日公表)

- 関西11月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.4ポイント上昇し41.0。2カ月ぶりのプラス。10月の大幅悪化(-4.6ポイント)から幾分持ち直した。
- 同指数の構成項目をみると、「暮らし向き」が同+0.6ポイント、「収入の増え方」が同+0.9ポイント、「雇用環境」が同+1.0ポイントといずれも2カ月ぶりに上昇。一方「耐久消費財の買い判断」は同-0.9ポイントと2カ月連続で下落。
- 全国11月の消費者態度指数(季節調整値)は42.5。同+1.3ポイントと2カ月ぶり改善。

景気ウォッチャー調査(2013年11月まで)

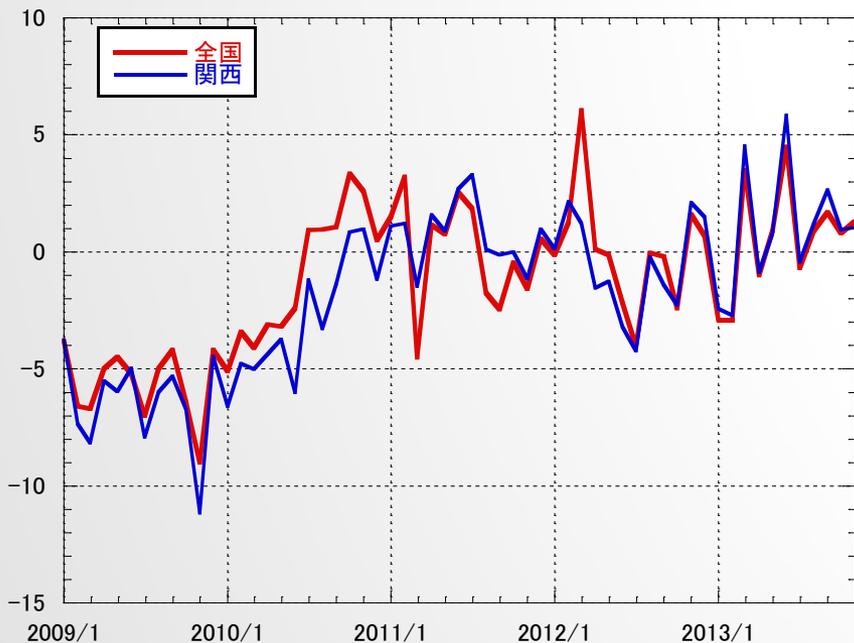


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」(平成25年12月9日公表)

- 関西の11月の現状判断DIは前月比+3.0ポイントの55.8と2カ月ぶりに上昇。
- 乗用車や家電を中心に駆け込み需要の動きがみられる。
- 全国の現状判断DIも同+1.7ポイントの53.5と2カ月ぶりに上昇。
- 関西の先行き判断DIは同+0.8ポイントの58.5、全国の先行き判断DIは同+0.3ポイントの54.8といずれも2カ月連続で上昇。

～個人消費・住宅～

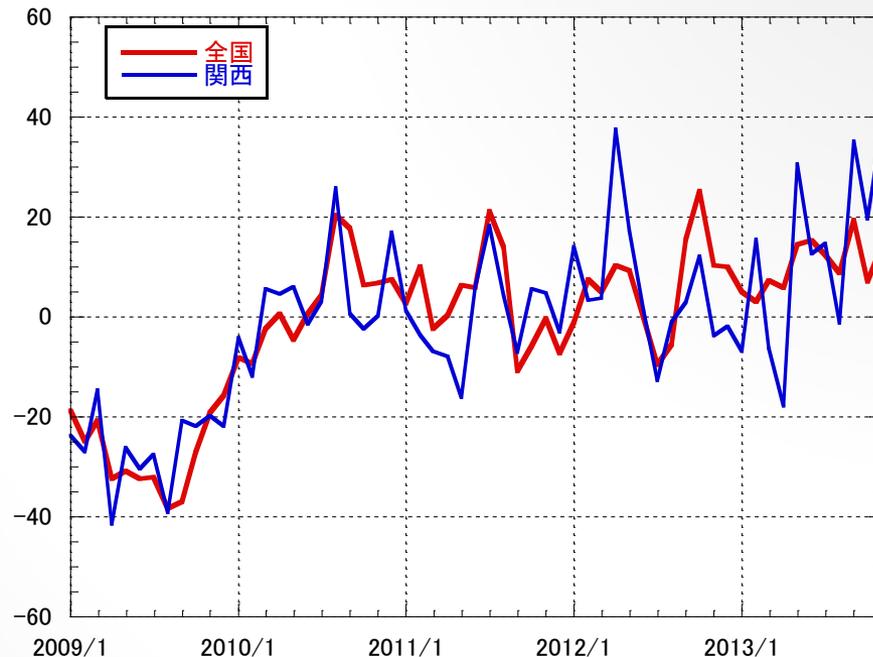
大型小売店販売額(前年同月比:%、2013年11月まで)



(注)福井県を含む。
(出所)経済産業省「商業動態統計」(平成25年12月27日公表)

- 関西の11月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.1%と4カ月連続のプラス。
- 百貨店も同+1.9%と4カ月連続のプラス。
- スーパーも同+0.8%と3カ月連続のプラス。
- なお全国でも、11月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+1.3%と4カ月連続のプラスとなっている。

新設住宅着工(前年同月比:%、2013年11月まで)

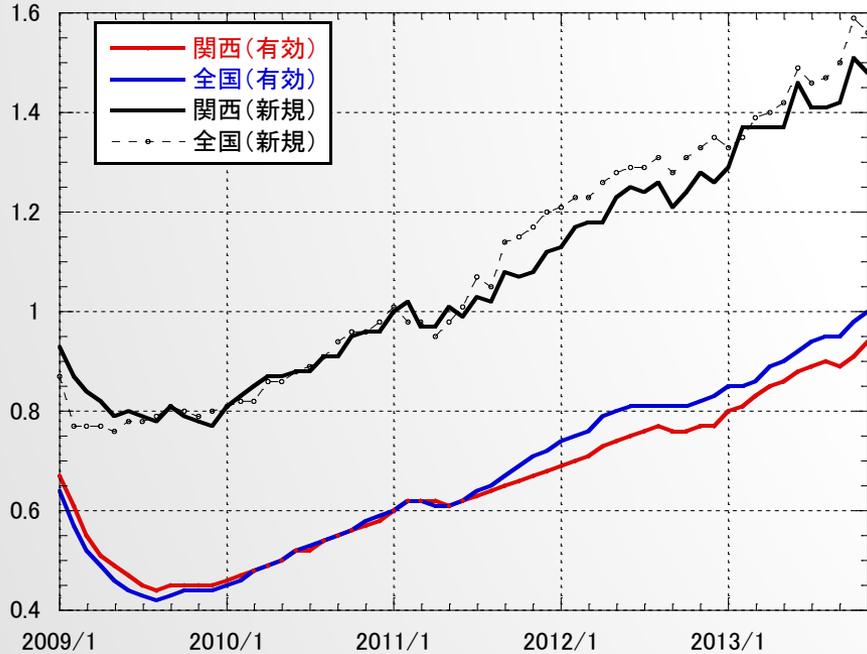


(出所):国土交通省「住宅着工統計」(平成25年12月26日公表)

- 11月の新設住宅着工戸数は13,938戸。前年同月比+37.9%と3カ月連続で上昇。
- 利用関係別にみると、持家は同+33.5%と10カ月連続の上昇、貸家が同+50.9%と5カ月連続の上昇。分譲も同+30.0%と3カ月連続で上昇した。
- 全国の新設住宅着工戸数は同+14.1%と15カ月連続で上昇。
- 11月の関西マンション契約率(出所:不動産経済研究所「マンション市場動向」)は79.4%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安とされる70%を21カ月連続で上回っている。
- 注文住宅を消費税5%で購入できる請負契約の期限は過ぎたものの、相続税制改正に伴う節税対策もあり、住宅市場は貸家を中心に好調を維持している。

～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2013年11月まで）



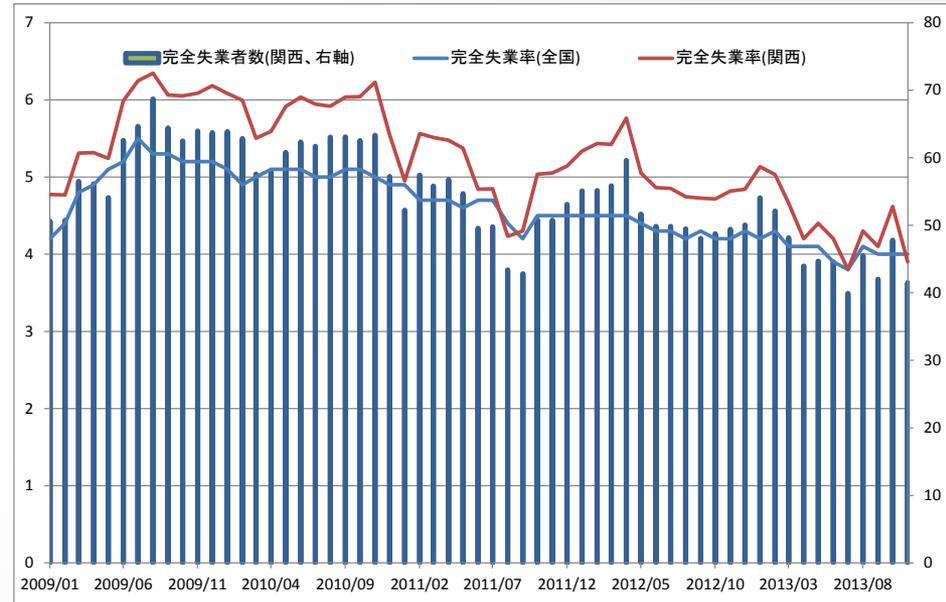
（出所）厚生労働省（2013年12月27日公表）

地域別有効求人倍率2013年11月

	全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
11月	1.00	0.83	1.08	1.04	0.93	1.19	1.22	0.94	1.14	1.05	0.80
10月	0.98	0.81	1.03	1.03	0.90	1.15	1.18	0.91	1.11	1.03	0.79

- 11月の関西の有効求人倍率は0.94倍、前月から0.03ポイント上昇。2008年6月以降の最高値を更新した。
- 全国は1.00倍で、先月から0.02ポイント上昇。有効求人倍率が1を超えたのは2007年10月以来。
- 11月の新規求人倍率は、関西は1.48倍と前月(1.51倍)より4カ月ぶりの低下。全国は1.56倍と4カ月ぶりの低下。

完全失業率の推移（季節調整値：％、2013年11月まで）

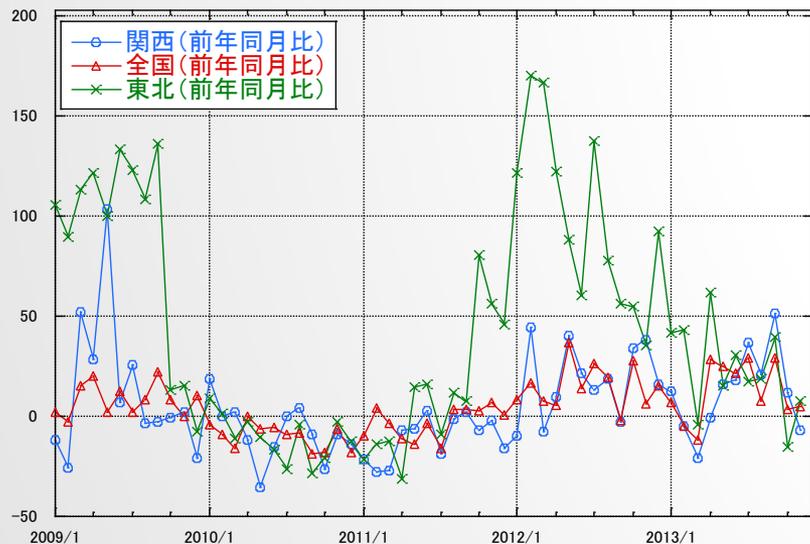


（出所）総務省「労働調査」（2013年12月27日公表）

- 11月の関西の完全失業率（季節調整値：APIR推計）は3.9%となり、前月から0.7%ポイントと大幅低下。
- 全国の完全失業率（季節調整値）は4.0%となり、前月から横ばい。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は41.5万人。前月から6.3万人の減少となった。有効求人倍率の改善が失業率にある程度反映されていると言えよう。

～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比:%、2013年11月まで)

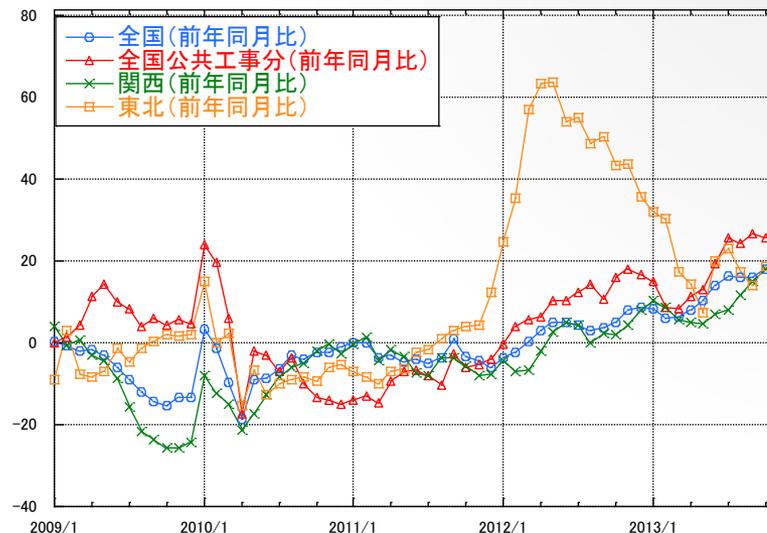


(注) 福井県を含む。

(出所) 「公共工事前払金保証統計」、東日本建設業保証株式会社

- 関西11月の公共工事請負額は1,112億円。前年同月比-7.0%と7カ月ぶりのマイナス。関西の公共工事はいまだ高水準であるものの、その伸びには停滞が見られる。
- 全国は9,416億円と同+4.9%、8カ月連続のプラス。
- 東北は1,785億円と同+7.8%と2カ月ぶりのプラス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は2カ月連続のマイナス(関西：前月比-10.5%)、全国は2カ月ぶりのマイナス(全国：同-9.9%)となった。

建設工事(前年同月比:%、2013年10月まで)

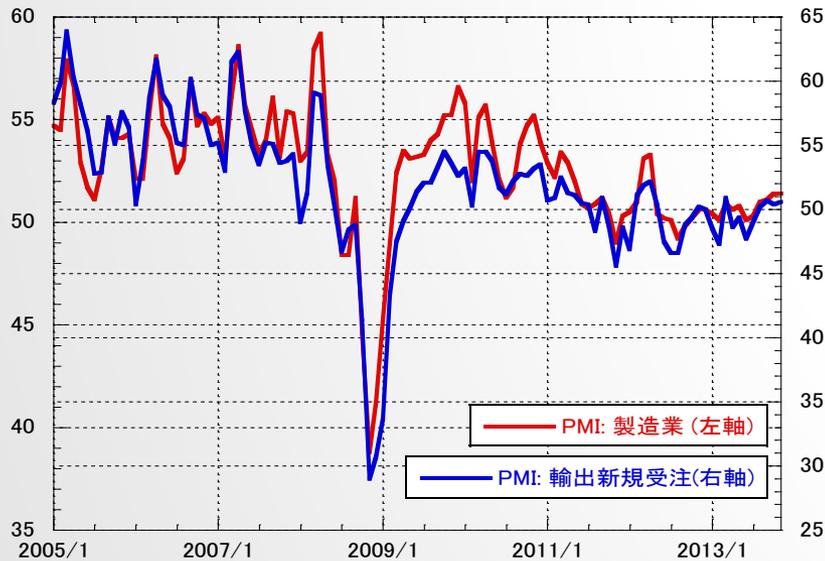


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西における10月の建設工事は5,402億円。前年同月比+18.1%と18カ月連続のプラス。伸び率は拡大を続けている。
- 東北は5,487億円と同+18.6%となった。27カ月連続のプラス。
- 全国の建設工事は4兆5,496億円となり、同+18.1%と20カ月連続のプラス。
- 全国の建設工事(公共)は1兆9,976億円、同+25.6%と21カ月連続のプラス。いずれの地域も、建設工事の伸びは堅調に推移している。

～中国経済動向①～

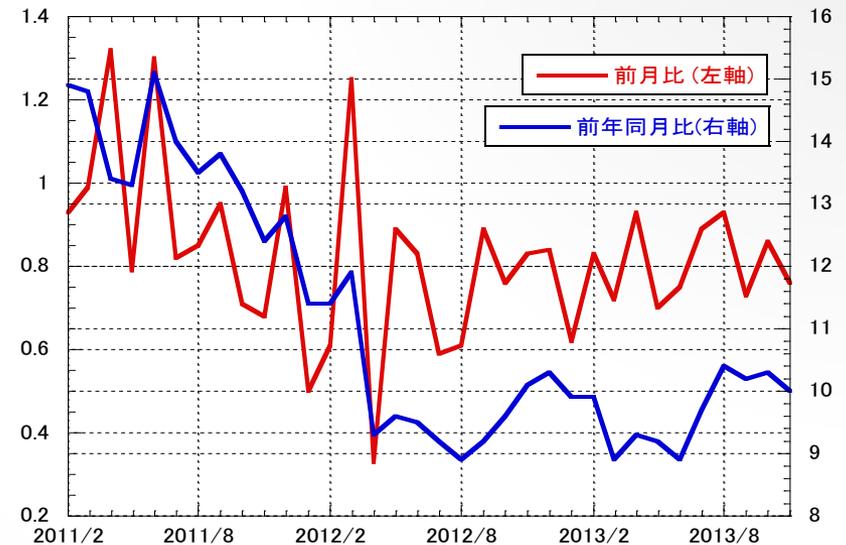
中国購買担当者景況指数(2013年11月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 製造業の購買担当者景況指数(PMI)は、11月に51.4となり前月比横ばい。うち、生産指数は54.5となり、5カ月連続で前月比上昇し、輸出新規受注指数は50.6となり、前月(50.4)より0.2ポイント上昇した。
- 一方新規受注指数は52.3となり、前月より0.2ポイント低下した。また、11月の雇用指数は49.6となり、前月から0.4ポイント上昇した。直近の8カ月では最高値である。
- 生産指数と輸出新規受注指数両方とも上昇したことは、近い将来の見通しにとっては好材料である。

工業生産動向(2013年11月まで:%)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 11月の工業生産は前月比+0.8%となった10月同+0.9%、9月は同+0.7%と緩やかな回復が続いている。
- 前年同月比で見れば、11月は同+10.0%と前月(+10.3%)より幾分減速した。
- 産業別に見ると、11月は化学原料・製品製造業(前年同月比+12.4%)、自動車製造業(同+20.3%)、電気機械・機材製造業(同+12.8%)が高い伸びを示す一方、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+7.8%)と電力・熱力の生産・供給業(同+6.1%)の伸びは比較的低調であった。

～中国経済動向②～

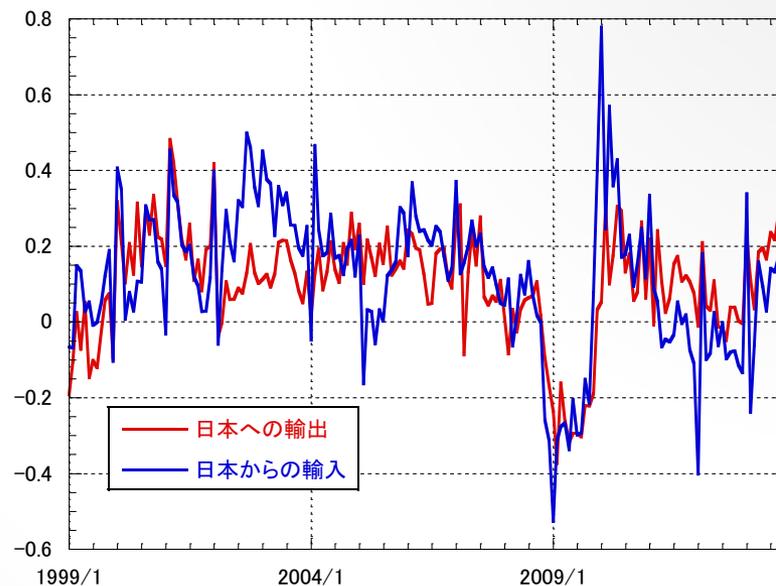
固定資産投資 (2013年11月まで:%) (累計伸び率)



出所：中国国家统计局;CEICデータベース

- 11月における(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+19.9%となり、前月(同+20.1%)から幾分減速した。
- 産業別の伸びを見れば、第1次産業+31.7%、第2次産業+17.3%、第3次産業+21.5%となった。

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2013年11月まで:%)



出所：中国労働市場情報観測センター;CEICデータベース

- 中国の輸出額(確定値、ドル・ベース)は11月に前年同月比+12.8%と前月(同+5.6%、確定値)より大幅に増加した。輸入額は同+5.3%(確定値)と前月(同+7.8%、確定値)より低下した。
- うち日本への輸出額は同+2.9%となり、前月(同+5.6%)から減速した。一方、日本からの輸入額は同+2.3%と16カ月ぶりのプラス。チャイナリスクの影響は更に緩んできたようである。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+27.3%と前月(+30.9%)より低下したが、日本からの輸入額は同+26.5%に上昇した(前月+19.5%)。